



ひとまねこざる

ひとまねこざるシリーズ

H・A・レイ 文・絵 光吉 夏弥 訳

岩波書店 1954年 1340円

47ページ 28×22cm

とても知りたがりやのこざるじょーじは、動物園の外が知りたくて、動物園を抜けだします。じょーじは、思いついたことは何でもするので、街に出ても失敗ばかりです。けれども、なかよしの黄色いぼうしのおじさんがじょーじをみつめてくれて、映画に出ることになります。

知りたがりやでいたずら好きのじょーじが繰り広げる事件はとても楽しく、読んでいる子どもたちを夢中にさせます。また、じょーじがいたずらをして、それを優しく包み込む、大人たちの愛情がシリーズ全体にあふれています。



100まんびきのねこ

ワンダ・ガアグ ぶん・え

いしい ももこ やく

福音館書店 1961年 945円

31ページ 20×27cm

むかしあるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。あるとき、おじいさんはおばあさんのほしがっていた猫を探しにでかけます。おじいさんはたくさんの猫がいる丘にたどりつき1匹の猫を選ぼうとしますが、どれもきれいな猫ばかりで選ぶことができません。そこでそこにいる猫をみんな連れて帰ることにしました。けれども家についた猫たちは、自分を選んでもらおうと大げんかを始めてしまいます。

たくさんの猫がいる様子が「ひゃっぴきのねこ、せんびきのねこ、ひゃくまんびき、1おく、1ちょうひきのねこ」とリズムカルに何度も繰り返されます。猫でいっぱい丘や猫の大行列などが細かく描かれており、白と黒だけでシンプルに描かれた絵本ですが、物語の面白さを最大限に伝えてくれます。

